

## 令和7年度第1回高知県社会貢献活動支援推進会議

開催日時:令和8年2月3日(火)14:00~15:51

場 所:オンライン(Zoom)

委員氏名:谷 達也、川田 あかね、小栗 充裕、梶原 絹代、木下 くみ子、田副 大輔、大崎 緑、  
近藤 純次、梶原 太一、川竹 大輔、矢田 正江、山本 あやみ、仙頭 正輝

---

### 1 開会

### 2 議事

#### (1)会長、副会長の選出

梶原太一委員を会長に、近藤委員を副会長に選任

#### (2) 第5次社会貢献活動支援推進計画の進捗状況について

##### 事務局

資料1により説明。

##### NPOセンター

資料1により説明。

##### 委員

まず、県職員のための研修について、次のステップにどうつなげていくかを考えているという説明があったが、具体的にどのようなことを考えているのかを聞きたい。

##### 事務局

まだまだ手探りな状況ではあるが、どのようなかたちであれば、「知る」から「連携」につなげていけるかについて、受入団体のみなさんとも協議しながら糸口を探していきたいと考えている。

##### 委員

クラウドファンディング型ふるさと納税について、実施団体が1件との説明があったが、どこか。

##### 事務局

特定非営利活動法人四国自然史科学研究センター。

##### 委員

江ノ口小学校で開催したNPO フェス 2025 について、今までとは違ったかたちで開催されたと思うが、具体的に教えていただきたい。

##### NPOセンター

昨年度からフェスというかたちで実施したが、今回は小学校という立地条件だからこそという点もあるかもしれないが、一般の方、親子で参加される方が多かったように思う。

企画段階からまずは足を運んでもらうことに力点を置いて、NPO の活動の中でも来場者に楽しんでもら

える活動の体験についてを盛り込んだ。

来年度は3回目になるので、より少し質的な部分、実はこういったところもNPOがやっているだとか、思いを持つ市民の方がやっているのだといったところに目を向けていただけるような仕掛けをしていく必要があるのではないかと考えている。今年度までのお楽しみ要素強めから、取り組んでいる人や団体に着目すること、これは今年度の課題として残ったことであるので、来年度は留意したいとは考えている。

#### 委員

ボランティアガイダンスについてだが、講演の中でナツボラとピッピネットについて知っているかを確認したが、若い方を中心にほとんど知られていなかった。広報の仕方に課題があるのではと感じたが、どのように広報していくのか。

#### NPOセンター

ナツボラやピッピネットでボランティアをされている学生も来ていたが、ピッピネットをみるとボランティアの情報が検索できたり、NPOのことがわかるといった、情報をどこで得るかがつながっていないところがあるのではと感じていた。そういった点も含めて伝え方を工夫していきたい。

#### 委員

すごい良い機会でもあるので、ピッピネットやNPOフェスなどうまくつなげていただけたらと思う。

#### 会長

1つ目の県職員のための研修については、今年度からの副業が解禁された。NPOは昔から非営利なので、おそらく副業できたと思うが、県職員もいろんな活動をする余地が増えてきているので、そういう動きがあるかと思う。

#### 委員

「デジタル化による事務の効率化」については、今年、全部オンラインで報告を行った。

割合やりやすいので、もっと利用してくれる団体が増えたら、多分県の事務的なところも軽くなるだろうと思ったが、何か報告をした後に特に何も無いことが逆に不安だったので、何か問合せとか、県にあったのかと思った。

いろんなことが事務の関係でデジタル化が進んでるので、税や社会保険などが本当に全部もうオンラインでできるように進んできているので、そういったサポートや専門家による指導なんか講座が受けられるといいのではないかと。

質問だが、「研修や相談窓口の充実」、NPO法人の設立等の相談が543件、705時間とあるが、例年より多いのか少ないのか、また、設立された法人数っていうのはどれぐらいいるのかが知りたい。

また、「行政・NPO・事業者など関係機関によるネットワークづくり」の高知災害支援ネットワークにどのような団体が参加されているのかを教えてください。

#### NPOセンター

NPO法人の設立等の相談についての時間数は、例年どおりで昨年と比べても変化はない。

今年度設立した法人は、5法人。

また、こうち災害支援ネットワークについては、現在、発足に向けて取りまとめているところだが、特徴的だと

思うのは、ペット支援に関する団体が手を挙げてくださっている。

ペット同行避難や、普段の私たちの地域の暮らしのことを考えたときに、多頭飼いが課題になることもあり、そういった普段の状況が災害時にもあらわれてくることから、しっかりと考えておかなければいけない。

一方で、普段の私たちの地域の暮らしのことを考えたときに、多頭飼いが課題になることもあり、そういった普段の状況が災害時にもあらわれてくることから、別途支援をしている団体にも入会していただいている。

他には、障害者や高齢者を支援している団体等。

災害支援というが、普段の暮らしの延長線上だと考えているので、多様な団体に入っていたらいいと考えている。今後もネットワークの輪を広げるために呼びかけは続けていきたい。

### 委員

視察を受け入れた際にこれから団体を立ち上げたいという相談が少なからずあり、一般社団法人とNPO法人がどっちがいいのかといった話になる。

NPO法人だとうだよといった話をしているが、NPO法人だと事務手続や報告を結構きっちり出していなくてはならないことから、割と一般社団法人が選ばれてるのではと感じているので、NPO法人のメリットなども発信していけたらいいのではと思ったので、ぜひよろしくお願ひしたい。

### NPOセンター

おっしゃったように、設立の際にかかる時間や、設立後の毎事業年度の報告などを考えて一般社団法人を選択することは増えているようにも感じている。NPO法人が市民や地域に根差した会員組織であること、そういった価値に対して共感をしていただいたり応援していただくようなところは私どもの役割にもなってくるかと思っているので、そこを大事にしてこだわっていきたく感じている。

### 委員

前回は聞いたが、ナツボラの受入をしているが、ボランティア保険に加入している学生が少ない。保険のことをまた確認していただきたい。また、連絡手段が以前電話だったのがメールが多くなってきている。「すぐー」を小中高と使っていると思うが、ああいう発信媒体で親に周知できればよいのではと思った。

参加した学生に参加動機を聞くと、学校から単位とか先生に言われてといった学生もいたことから、教育機関とのボランティアの趣旨のすり合わせが必要ではないかと感じた。

### NPOセンター

まず、一番最後におっしゃったことについては、私どもも先生に言われて夏休みにボランティア活動をしてきて、証明書ももらって、大学受験の申込書類に記載しているものになっているのではといったことはやはり見受けられる。

1つの入り口になると思うので、活動すること自体の意味であったりとか、やってよかったことややりがいなどもおそろく感じていただけているはずなので、そういったところを大事に持ち帰ってもらいたいし、それが継続して少しでも続くよう、単発じゃないかたちにはなってほしいと思っている。

1つ目のボランティア保険の話だが、『ナツボラガイド』というガイドブックに記載しているが、受入団体によって、高校生が加入するところ、受入団体側で加入するところと様々ある。

ガイドブックに書いたり、高校の先生向けの説明資料なども作っているが、もう少し表現や伝え方を含めて、

必要だと感じている。

「すぐる」については、正直そこまで学校に私どもが踏み込めていない。以前はガイドブックを送っても配ってくれないような状況もあったが、やっともうほぼ全ての学校でガイドブックを配っていただけるようになった。

とはいえ、おっしゃるようにデジタル化が進んでいるので、教育委員会との接触や個別学校訪問の機会に「すぐる」についても打診してみようかと考えている。

#### 委員

もう1点、前回も聞いたと思うが、学校が使っている保険がナツボラに使えないか、確認していただけたら、負担が減ると思う。

#### 会長

学校の先生向け資料を作って案内されているという話があったが、高校の先生に情報提供するためにチラシを作ったりするが、動画マニュアル、紙で作るのではなく、動画で何か様子がわかるようなものがあったら欲しいという御意見もあった。

#### 委員

全般的なことではあるが、今日ずっと聞いていて、たくさん事業として行っていると感じている。

災害の関係のこと、あるいは先ほどお話された動画の取組など、これから期待されているところもあると思いつながり、一方で、予算と人には限りがあるので、どこに優先順位をつけてやっていくかでいろいろと現場の課題があるのではないかと推察する。

例えば、情報提供については、毎月やって、それにどのくらい反応があるかを見たりする中で、これまでやってきたけど、これは2か月間にしようとか、3か月に1回とか、そういう判断があってもいいのではと思いつているところ。こういう限られた中でどう効果的にやっていくかについて、どんな方向性で考えているかを少しお聞かせいただきたい。

#### NPOセンター

私どもが実施する研修やセミナーの案内をNPOさんがきちんと御覧いただいて、取捨選択されていると今年も感じたところ。例えば、今年開催した生成AIのセミナーには多くの方に来ていただいた。

今年、私どもが開催したセミナーの中では1番多くて、ニーズに合ってたんだろうと。一方で、人数的に苦戦をしている研修もあり、基礎的な内容や法人運営に係る会計や労務といった地道にしていかなければならないことについてのニーズに答えられているかというのは、冷静に見極めていかなければならないと思いつている。研修形態でやるのがいいのか、あるいは個別相談というかたちで、私どもだったり専門の先生につないだりとか、内容によって対応の形態を変えていく。集合形式は、新しい、刺さるテーマを見つけていくとか、その見極めは、関係するみなさんの声もいただきながら、取捨選択していかなくてはならないと、今年感じたところ。

#### 事務局

委員がおっしゃったとおり、確かに予算なり人なりっていうのは限りがあるものだと思いつているので、いかに効果効率的に実施をしていくかということだろうと思いつている。

情報提供なり、情報発信にしても、いかに効果的に届けるのか。どういうやり方がいいのかということの検討を進めていくべきと思いつており、具体的には、これまで紙でやってきたけれど、今後はSNS等を活用した

方法に移行といったことは、今後も引き続き取り組んでいきたい。

#### 委員

先ほど生成 AI の話題も出たが、議事録やチラシ作成などいろんな側面で活用が進んでいく中で、出来た時間を活用する。優先順位をつけながらやっていただければ。

#### 委員

一つの意見だが、経済団体との連携と大学生との連携について企業さんの社会貢献に対するニーズ、大学生が求めているNPOへのニーズ、こういった情報が何かNPO側でもわかるようになればよいと思ったところ。

反対に、何かNPO側がこういうことを一緒にやりたいと思っていることも伝えてもらう機会があったら、もう少しマッチングにつながったりするのではと思ったので、何かそういった情報の整理がうまく生かされたらよいのではないか。

#### NPOセンター

大学からは単なる体験ではなく、学びのある活動をしたいと言われており、本当にそのとおりだなと思っている。

そういう意味で私どもがコーディネートする際に、活動の前後には、こういった活動がどうして始まったのか、その活動の意義や背景を学生に伝えていただいたり、活動の中身について学生と少しシェアして話し合うような場も設けてといったかたちで、いわゆる活動しっ放しにならないよう工夫をしている。

私どもが少しつなぐ役割をして活動プラス学びの要素を取り入れて、学生がNPOの活動を経験していく、そんな機会になればと思っている。

経済団体、企業との連携は、なかなか私どもも十分にできてないところがあり、今、企業がどんなところをお考えになっているか、おそらく企業も、社会貢献活動、地域活動をそれぞれ独自にされていて、一定の取組の積み上げがあるのではないかと考えている。

そうした中で、NPOとどういった協働をして何かができるのかというのは、ちょっと我々も見えにくい状況になっていて、一部の企業とは以前からの付き合いが続いてというのはあるものの、広がりが少し弱くなっているので、おっしゃっていただいたように意識的に取り組んでいきたいと思っている。

#### 会長

こうち災害支援ネットワークにも参画してくれている企業もあると思うので、そのつながりなども生かしてほしい。

#### 委員

2点ある。Web報告システムについては、使ったらとても簡単でみんななぜ使わないのだろうと思った。さらに利用NPO法人数が25件との報告を受けて、まだこんなに使ってないのかと驚いた。ただ、私は使ってみたら簡単だと思ったが、パソコン操作が苦手な人にとればいくら簡単であっても難しい。小学生でもわかるくらいの手引書を作ったり、動画で配信したりといった工夫をした方がよいのかなと思ったのが1点。

もう1点は、クラウドファンディング型ふるさと納税についてだが、クラウドファンディングをしたいとの相談を何件か受けるので、1件とは少ないとの印象を受けた。なぜ1件だったのか、なぜハードルが高いのか、について教えてほしい。

## 事務局

ふるさと納税を活用したクラウドファンディングは、行政がやる事業の一つであるため、どうしても単年度にならざるを得ない。年度当初に手を挙げていただいて、そこから一定期間がたって、交付決定補助団体先として決定されてからクラウドファンディングを実施していくということになるため、事業のスタートが通常より若干遅れざるを得ない。一方で、事業の終了については、年度末の3月31日までには必ず終えていただくことになる。こういう時間的な制約がなかなか手が挙がらない理由の一つではと思っている。一番大きいのは、この情報自体がなかなかNPO法人のところに行き届いてないんじゃないかと思っているので、広報をいかにやっていくのかも課題だろうと考えている。

## 委員

災害に向けての研修もやっているし、時々役員会でも、子ども食堂への寄附といった話も出ている。ボランティアや災害について、何かしら一緒に研修ができるといいと思って聞いていた。

説明の中で子ども食堂への寄附の話がされていたが、このことについて情報をいただけないか。

## NPOセンター

子ども食堂は地域でボランティアの方やNPOがされたりと様々なかたちで、地域の子どもだけではなく、大人も含めた居場所として機能している。

私どもは子ども食堂との関わりもあることから、何か応援したいんだけども、今どんなことが必要なんだろうかといった相談をいただくことがあり、例えば、調味料が必要とか、具体的なやりとりをしている。

具体的な品物をいただいた場合は、私どもから必要な方は申し込んでくださいとの声掛けをして配布をするといった仲介をしている。

もし、そういった支援については、個別にお出しいただいたら、必要な先につないだり、品物の寄附についても相談できるかと思っている。

## 委員

資料全般について、自己評価の二重丸と丸の違いが分析検証を見てもどっちでも取れると思っている、一つ提案だが、いろんな評価で実績の数字が入っているの、この行動計画のPのところ、数字を入れていただくと、自己評価が二重丸か丸かのものさしの一つになるのではと思った。

## 事務局

検討する。

## 委員

企業との連携についての話も出ていたが、フードバンクへの寄附をさせていただいたりしているものの、まだまだ社会貢献活動としては足りてないのではと思っているし、NPO法人との連携については、今のところアイデアの持ち合わせはないが、今後、実施に向けた検討というのはしていきたいと思っている。

## 委員

活動してもらって取組方法、いろんな方との連携、次の世代に活動をつないでいくといった、いろんな同じような取組を自分たちなりにやっており、同じような分析と今後の取組への改善への思いを持っていると感じた。

特に、自分たちの活動を通じての周りの方の意識の変化や、自分たちがやれることでどう変わっていくのかというところを図りたい一方で、なかなかそこに対しては数値も持ちにくく、結果を認めにくい点でいつも悩んでいる。

ボランティアガイダンスの話があったが、ピッピネットやナツボラを知らない人たちがいることもそうだなと思いつながりながら聞いていた。逆に捉えたとそこにいる人たちにはその場で浸透させていけるぐらいの前向きな思いを持って、一つ一つ伝えていくということが一番できることではと思ったところ。

最後にもう一つ、私たちも人的なものも、資源としてお金のこともすごく縮小してやっていかないといけないという時代になっているので、優先順位をよく協議して決めて動いていくことがすごく大事になってくるんじゃないかと感じた。

### 委員

ナツボラについて、受け入れる団体がない市町村もあるとのことだったが、その市町村に受け入れる団体がないといけないということか。

### NPOセンター

ナツボラは、ボランティアの受入れを希望する団体先に登録していただいている。

高校生に1日でも何かしらボランティア活動してほしいということであれば、普段の活動でボランティアを受け入れていただいてもいい。また、夏休み期間なので、イベント的に受入れていただく場合もある。

ボランティア受入れの主体となる団体、その活動をされる方がいることが必要になり、それを私どもの場合は受入れ団体と呼んでいる。

### 会長

市町村によってはNPOに対する理解が十分でないところもあるとの記述があったが、具体的にどのようなことなのかをお伺いしたい。

### 事務局

毎年、NPO が対象となる事業や活用できる施設等の照会を行っているが、窓口が存在しない市町村がある。

### 会長

県によっては市町村全部にNPOの窓口があり、NPO法人を立ち上げようとする場合、県庁所在地ではなくて、地元の役場に行ってNPO法人を設立したというようなことがあった。

同じことをするのは大変かもしれないが、高知県の場合は、高知県庁に出向かないといけない。各市町村でNPOの設立ができるということは、少なくとも1人はNPO担当の知識がある方が各市町村にいるというレベル。そこまではいなくても、1人ぐらいは詳しい方が各市町村にいるとよい。

### 事務局

市町村でNPO法人を設立できる場合は、その市町村に条例に基づく事務処理の特例により権限移譲しており、高知県だと土佐町、津野町、黒潮町の3つ。

市町村に照会をかけて、手を挙げてくださったところに権限委譲をしており、高知ではなかなか手が挙がら

なかったという状況。

身近な市町村のところで相談、手続ができるメリットがあると当時は進めていたが、今はポータルサイトができていますので、手続もネットが使える方だと割と簡単にできるようになったので、今さら難しいのではとの思いもある。

ただ、やはり相談窓口が遠いとの課題もあるので、高知県ボランティア・NPOセンターと分担しながら、設立や運営についての相談には私どもで何とか対応していきたいと思っている。

## (2)その他

### 会長

先週の日曜日の朝に清掃活動をされていた。県全体で県職員が率先して、県民に呼びかけて、ごみ拾いのボランティアをしようといったイベントで、主催が林業振興・環境部になっていたが、県民生活課はあんまり関与しないのか。あるいは、高知県ボランティア・NPOセンターは、一斉清掃運動には、あまり関わっていないのか。

### 事務局

林業振興・環境部が環境を担当しているので、ボランティア活動というよりも環境に対する活動ということで環境対策課が担当してやっている。

### 会長

ああいう活動に高知県ボランティア・NPOセンターが名前を出したりするということにはならないのか。縦割りなのか。

### 事務局

いろんなボランティア活動全てに県民生活課が関わっていくとするならば、全部の仕事に関わっていくことになってしまうので、縦割りというよりも役割分担でやっている。

### 会長

別の仕事があって参加できなかったが、トンゴとごみ袋を持っている人に挨拶はしておいた。

自分が参加できなくても、そうやって活動している人に頑張ってと、応援してあげるだけでも十分に意味があると思う。

### 委員

参考資料のアンケートについて、協働した相手という項目にボランティア団体が無いが、その他に入るのか。あるいは市民活動団体に入るのか。

### 事務局

市民団体に入る。

### 委員

市民活動団体は、任意のボランティア団体とはちょっと違うのでは。

### 事務局

わかりやすい表記にすることを検討する。

#### **委員**

第 5 次の高知県社会貢献活動支援推進計画のパンフレットの内容についても 1 点。

高知県内の高校は 44 校ぐらいあるが、令和 10 年度の達成目標にナツボラ参加高校数が 40 校となっている。

県内の高校の数が 44 校で 40 校達成というのは、残り 4 校ぐらいは達成はできなくても、良しとするということか。

#### **事務局**

令和 5 年度にこの計画を策定をした当時、検討委員会の中で御議論をいただいたが、決してどこかの学校が参加しなくていいといった意味で目標を設定してるわけではなく、当時の参加校が 32 校であったので、それを上げていくというとき、44 校全て参加といった目標の立て方もあろうかと思うが、当時は 32 校を少しでも上げて、より多くの学校にと 40 校という目標を設定した。

### 3 閉会